

イワタバコ科 2 種

世羅 徹哉・中山 長秀

1. *Sinningia verticillata* (Vellozo) H. E. Moore

当園では、1982年に本種の種子をA.G.G.S⁽¹⁾から導入し、現在育苗中であるが、1983年、ブラジルから別途に導入した塊茎が本種のものであったので簡単に記録しておく。

導入したのは1983年5月で、塊茎の大きさは長径15cm、幅8cm、高さ10cmで、ひょうたん形であった。高温多湿下で管理したところ不定芽が出芽伸長し、9月中旬には高さ約15cmに達して開花し始めた。葉は5cm間隔に3葉ずつの3輪生であった(図1 a)。葉が輪生するのは本種の特徴であるが、実生苗では、1年目は対生し2年目から輪生するのが観察された。葉の色は表裏ともに暗緑色で、The Gloxinian⁽²⁾に示されているように裏面が濃い栗色という特徴は認められなかった(図1 a)。花は茎に頂生し、21個が開花した(図1 a, b)。花冠は鮮桃色で暗紅色のモザイク状斑があり、長さ45cmの筒状。

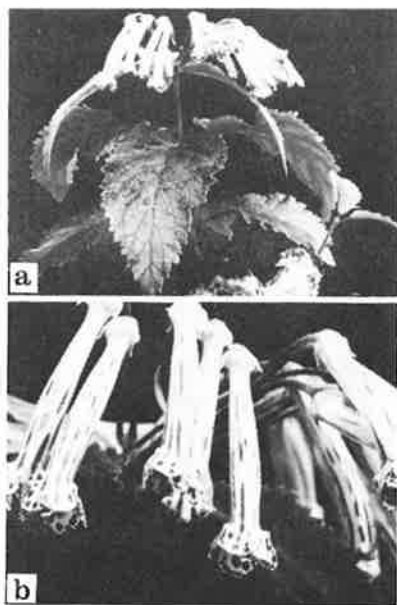


図1 *Sinningia verticillata*

先端の0.5cmは5裂し、2裂片はやや唇形であった(図1 b)。

本種は、現在では園芸的にあまり重要視されていないが、かつては *S. eumorpha* などと交配され、また生育が良ければ輪状の花が2段につくことから 'Double Decker Plant' と呼ばれて栽培された貴重な原種であり、園芸的にも現在の品種とは異なる観賞価値を持つものと思われる。

2. *Agalmyla parasitica* O. Kuntze

本種は、1982年1月にインドネシアから導入したもので、1983年7月、当園で初めて開花し観賞価値の高いものであったので簡単に記録報告しておく。

本種は、マレー半島、及びスマトラ、ボルネオ、ジャワに自生する。本種の属する *Agalmyla* 属は *Aeschynanthus* 属に近縁であるが、柱頭が2裂 (*Aeschynanthus* では唇形) し、完全雄蕊が2本 (同4本) の点で区別される。

本種は、自生状態では基部が地面を匍匐し、節部から着生根を出してつる状に樹木に登るが当園の個体はまだ小さく茎は匍匐状態である。葉には長さ8cmの葉柄があり、葉身はだ円形で長さ15~17cm、幅7cm。やや革質で表面は光沢があり、裏面には短毛をしく。葉縁は外側(下側)に反転し、浅く大きな鋸歯がある。花は、充実した茎の葉腋に約8個つく(図2)。花冠は長さ5cmの筒状で鮮紅色。花柱は先端の約2cmが花冠から突出し、濃青紫色。一花房の花は約2週間観賞できる。



図2. *Agalmyla parasitica*

(1) American Gloxinia and Gesneriad Society
(2) 上記協会の会誌